

編集後記

さわやかな小春日和のなか、RIST News 36号をお届けします。

目まぐるしく日進月歩するIT革新の中で、変わらずにゆったりと流れているのは、四季の移り変わりでしょうか。

当財団・狐崎氏の巻頭言では、今後の計算科学のさらなる進展に対する大きな期待が述べられています。この期待に応えるように本号では、コンピュータシミュレーションに関する2人の方々の御寄稿をいただきました。茨城大学・情報工学科・山田氏の「ニューラルネットワークコントローラとデジタル制御系」は、複雑な生体神経回路のコンピュータシミュレーションに関するもので、従来の2層ネットワークモデルから多層型連続モデルを採用することにより、より精密な神経回路シミュレーションが可能になったと報告しています。さらに他の分野への応用を含めて、今後の研究が期待されます。原研・菅原氏、岸本氏の「大規模シミュレーションを中心に据えた遠融研究システム：SIMON」は、シミュレーション結果の解析・評価と研究者間の情報交換のためのツールとして、今後の活用が望まれます。原研・大石氏には、これまでの複雑な γ 線検出システムの設計と最適化を、簡単な入力構造により効率的に行えるコードを紹介していただきました。能澤顧問には、前号に引き続き「英語の特徴いろいろ」の御寄稿をいただきました。英語が世界的言語として普及している背景には、その発音に対する柔軟性が挙げられることを認識させられます。

(岡田、鈴木)